

農地中間管理事業利用者の主な意見

○出し手農家

- ・地域内での担い手がいないため、他地域の方でも入ってくれてありがたい。
- ・子、孫も遠方に住んでおり、農地の管理に困っていた。たまたま見たテレビで農地中間管理事業の制度を知って応募した結果、意欲ある担い手に農地をつなげることができて感謝している。
- ・自分では耕作できず、子供も農業をしていないので借り手が見つかって良かった。
- ・地域には担い手がほとんどいない状況。農地流動化対策も必要だが、担い手対策の方が重要なのではないか。
- ・私の周りで農業をしている人は高齢の方が多い。あと数年すればよりたくさんの優良農地が出てくるのではないか。
- ・今は借りてくれているので良いが、10年後が不安。
- ・今まで頑張ってきた農地なので、農業公社やJAのおかげで安心して貸すことができよかった。間に農業公社やJA等の機関が入ることにより、世代交代関係なく、安心して貸すことができることはメリット。
- ・自分の農地が草等で荒れていくのは嫌だし、大切な農地を改植等で計画的に頑張っている梅農家に貸すことで地域に貢献できればうれしいこと。

○受け手農家

- ・借り先が農業公社なので安心感がある。今後は農地中間管理事業を活用して借り先を集約していきたい。
- ・農業公社から機構業務を委託されている地元JAの農地流動化担当者が、熱心に現地調査や地元交渉を行ってくれたおかげで、目指していた経営スタイルに沿った営農が可能となる農地を借りることができて感謝している。
- ・公社には受け手の教育をしっかりしてもらいたい。受け手が悪ければ中間管理事業の評価が下がり出して農家からの信頼が得られず農地が出てこない。
- ・農地を借りる者の鉄則は①返せと言われたときはスッと返す、②クレームがあればすぐに対応する、③借受農地の周りの農家とは仲良くする。
- ・他の地域で営農をする場合、地域の受け入れ体制に不安がある（水問題・モノラック等の施設問題等）。地元農業委員等を中心としたサポート対応を充実して欲しい。
- ・借り手農家に対する補助制度も充実して欲しい。
- ・新規就農で全く違う地域に入ってしまったが、地元の受け入れについては、地域間で差を感じた。地域の方々が排他的なところには、なかなか入っていきにくい。